

アジア太平洋諸国におけるソーシャル・サポートと生きがい感 —主観的健康感との関連—

データ科学研究系 助教 朴 堯星

【社会的ネットワークと健康の関係、そして主観的健康感に対しての生きがい感の位置づけ】

•近年、社会学、政治学、経済学などの社会科学分野では、「ソーシャル・キャピタル」に関する研究が盛んである。
Kawachi et al. (1997) : ソーシャル・キャピタルには、地域住民の健康に正の効果があるとしている。

•公衆衛生分野では、ソーシャルサポートが精神的な健康にもたらす効果の重要性についてしばしば議論されている。

Cohen and Wills (1985) : ソーシャル・サポートがある場合、個人はストレスを軽減することができることで、ストレスに適切に対処できるようになるとしている。

→ 社会的ネットワークとしてのソーシャル・サポートと主観的健康感の間に**関連があることはすでに多くの先行研究によって明らかにされている。ただし、そのプロセスについては究明されていない。**

•Park(2015): 生きがい感は、人生を豊かに生きるための重要な概念のひとつになりうることから、ソーシャル・サポートと主観的健康感の間に、生きがい感が媒介している可能性に着目。
アジア・太平洋価値観国際比較調査 (APVS) (代表者: 吉野諒三) のデータを用い、ソーシャル・サポートを通じた社会的ネットワークの存在が、生きがい感の向上につながることを確認している。しかし、その関係は、国際比較の文脈では必ずしも同一ではないことを示している。

- 日本, 中国(北京・上海・香港), 台湾, 韓国, シンガポール, ベトナム:
生きがい感に対してのソーシャルサポートの効果があり
- 米国, オーストラリア, インド:
ソーシャル・サポートと生きがい感の間には**連関が表れない**



【アジア太平洋価値観国際比較調査 (APVS調査) の概要: 方法】

•統計数理研究所調査科学研究センター(代表者: 吉野諒三)

•調査期間: 2010年~2014年

•対象国: 日本, 米国, 中国(北京, 上海, 香港), 台湾, 韓国, シンガポール, オーストラリア, インド, ベトナム

•調査方法: 訪問面接法

•主な質問項目内容: 一般市民の広範な生活・社会・価値観などに関する質問が中心(不安感, 満足感, 人間関係, 信頼感, 宗教観, 一般的社会問題などを含む54項目), 基本属性(性別, 年齢, 学歴, 世帯収入, 職業等) (詳細については, <http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index.htm>を参照)

【国・地域別の単純集計】

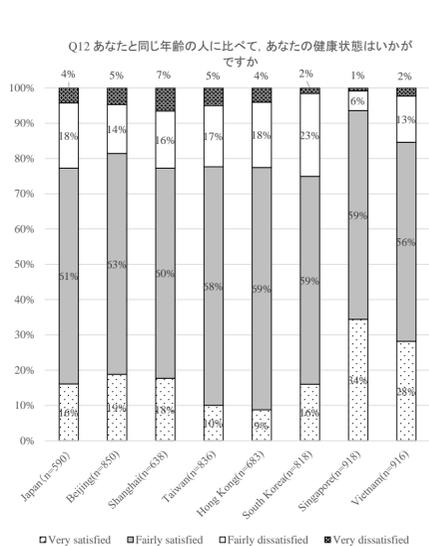


Figure1 主観的健康感

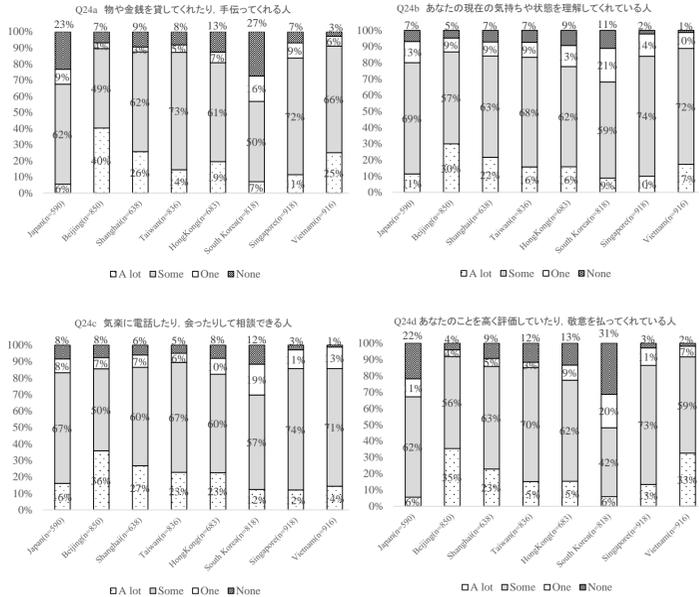


Figure2 ソーシャルサポート

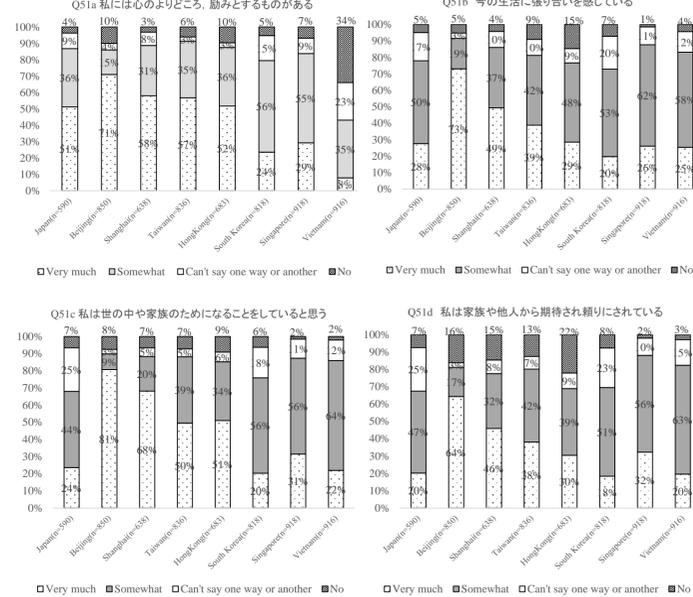


Figure3 生きがい感

【マルチグループパス解析モデルの結果】

Table1 主観的健康感とソーシャルサポートと生きがい感の関係

因果序列の組み合わせ			CFI	TLI	RMSEA
ソーシャルサポートと生きがい感	ソーシャルサポートと主観的健康感	生きがい感と主観的健康感			
パターン1	→	→	1.000	1.000	.000
パターン2	→	→	1.000	1.000	.000
パターン3	→	→	.973	.919	.064
パターン4	→	→	.765	.648	.096

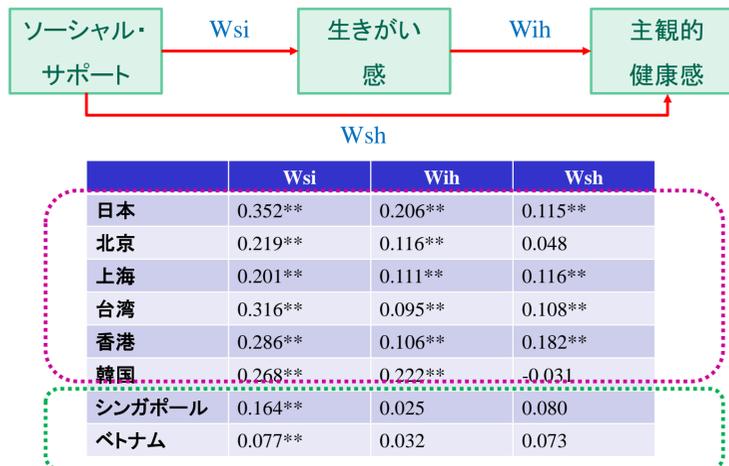


Figure4 国・地域別の結果

【参考文献】

YOOSUNG PARK(2015), SENSE OF IKIGAI AND SOCIAL SUPPORT IN THE ASIA-PACIFIC REGION, *Behaviormetrika*, 42(2), 175-192.